

17. 慈母觀音・万葉歌碑・所家住宅

(1) 慈母觀音

鹿島開発によって干拓事業が行われ「日の出」というニュータウンが誕生しました。その中に母なる運動の拠点として昭和50年6月に慈母觀音菩薩が造られ、当時の奈良薬師寺管主高田好胤和尚の手によって入仏開眼された比較的新しいお寺で※『花の寺』ともいわれています。（※春から順にボタン（4月～5月）、アジサイ（6月～7月）、ハス（7月～8月）、ユリ（7月）、皇帝ダリア（11月）が咲きます。）

正式名は奈良薬師寺東関東別院「水雲山潮音寺」という法相宗の寺院です。

ご本尊は慈母觀音。また薬師の本尊である薬師如来は無量寿殿に安置しています。

「水雲山潮音寺」は檀家のいない、葬儀はしない、墓地も持たない薬師寺の伝統を守っています。この地区は東日本大震災により液状化の被害が大きく、潮音寺でも16棟あった建物が4棟になってしまい境内では今も修復工事が行われています。境内では親の恩を説いた「父母恩重経」の御写経や仏様のなぞり書き「写仏」などができるほか先祖供養、水子供養や病気平癒の御祈願などが受けられます。

8月13～16日、12月31日に万燈会が行われ境内中央広場で一万燈のろうそくに灯をともし、感謝と祈りを捧げます。

【水雲山潮音寺銅鐘記…橋本登美三郎撰文】

『この地に六十万坪の新しき町つくりをするにあたって、その地の衆人相集いこの新市街地を心のある町としたい念願から、中央に觀音堂を建立し水雲山潮音寺と名称した。水雲山の名はこの地よりはるか太平洋を望めば水辺雲につらるるの景観あり、よってこの名称されたるものである。鐘の正面には「みほとけの久遠の鐘の音あまねくば荒振る世とてやはらぎあるべし」と作したのは世の心のざわめきを觀世音の鐘の音により、人心の和きを求めるがためである。』



入り口



本堂



御本尊



鐘楼



不動堂



万燈会

(2) 万葉歌碑

万葉歌碑は慈母観音本堂の裏にある広い庭園の池のほとりにあります。本堂の裏側に廻っていくと池があり、浪逆橋を渡るとすぐ左側に歌碑があります。

「常陸（ひたち）なる浪逆（なさか）の海の玉藻（たまも）こそ引けば絶（た）えすれ何（あ）どか絶えせむ」（巻14－3397）

（大意）常陸の浪逆海の玉藻こそ引けば切れるが、われわれの仲はどうして切れよう。

（作者）未詳。常陸の国の歌



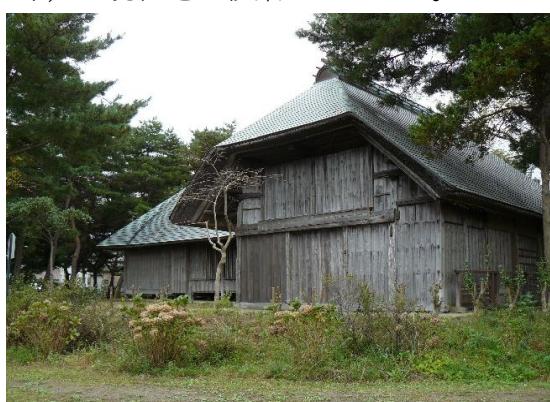
(3) 旧所家住宅

旧所家住宅は東茨城郡桂村に所在した住宅でしたが、たまたま住宅新築のために解体されたのを機会に当地に移築したものです。所家は江戸時代中期頃村役などを務めた旧家で、この建物も形式手法から見て18世紀中頃の遺構と考えられます。

（吉田松陰が東北遊・水戸訪問の折り、桂村で宿泊した阿野沢の住宅です。）

建物は曲屋状の平面を持つ住宅で、全国的に珍しいといわれている居住部（広間、座敷、納戸）と土間部を別棟とした分棟型民家の一例として注目されるものです。座敷及び納戸部に矩折（かねおり）の縁を設けたり、土間の正面側に中二階を設け外観を兜屋根とするなどの特徴を持ち、この時代の村役階級の農家としての型式手法を良く保持し、その生活様式による構造的空間への意匠を興味深く残しています。

昭和45年（1970年）に茨城県指定有形文化財に指定され、昭和47年（1972年）に現在地に移築されました。



道路側



慈母観音側